

リメディアル教育で デザインの学びを拓く



 **東京工科大学**
TOKYO UNIVERSITY OF TECHNOLOGY

デザイン学部
講師 堀川卓哉氏



トールン美術予備校

学長 瀬尾 治
学長補佐 佐々木庸浩

東京工科大学デザイン学部は入学時より「視覚デザイン専攻」「工業デザイン専攻」に分かれ、2専攻4コースの学習体制の基、誰もが4年間の中で学びを深め、デザインの高い専門性を身につけることができる大学として注目されています。毎年魅力を増していく東京工科大学デザイン学部は、いち早くリメディアル教育に取り組んできた学部としても知られています。早期に入学が決まった受験生（以下、入学予定者）に対しての効果的なスキルアップと学習意欲を高めるプログラムは、入学後の学修の取り組みを活性化させています。多様化するデザイン学部の学びに対応すべく進化を続けるリメディアル教育について、堀川卓哉先生にお話を伺いました。



——どのような方にデザイン学部を目指してほしいですか？

東京工科大学デザイン学部は、手と頭を動かし考えることで鍛えられる「感性」と、コンピュータで新しい表現力を身につける「スキル」を融合させた実践的な2つの演習により、デザイン教育における先駆的役割を担ってきました。アドミッションプリシーにもある通り、デザインの感性と創造力・企画力の学修と研究に強い意欲を持って挑み、自己成長して自分の夢の実現をめざす人。国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性、創造性を育み、実社会で役立つデザインのマインドとスキルを身につけ、持続可能な社会の実現に貢献する意欲がある人を求めています。

——入学後はどのようなことを学ぶのでしょうか？

専攻別に入学した1年次では感性演習と教養教育科目によって幅広い教養を学び、2年次からはデジタル技術分野を中心とした表現スキルと3年次から選択するコースに関する幅広い内容の修得をめざします。3年次以降は2つのコースのいずれかに分かれ、専門分野で活躍する教員がそろった環境に身を置き多角的なアドバイスを受けながら、グループワークなどを通じて考察を深め専門性を修得し、「実学」による発想とデザインというコミュニケーション手段で社会に貢献する人材を育成します。

——入試はどのように行われるのでしょうか？

本学部では、みなさん1人ひとりの特性を活かして受験ができる様、複数の受験方法を取り入れています。いずれの方法で入学しても、デザインスキルをしっかりとし身につけられる様なカリキュラムが用意されており、安心して受験して下さいます。



デザイン学部・講師
堀川卓哉氏

また、総合型選抜・学校推薦型選抜などで早期に合格が決まった入学予定者に対しては、他大学に先がけて「リメディアル教育」を実施してきた実績があります。

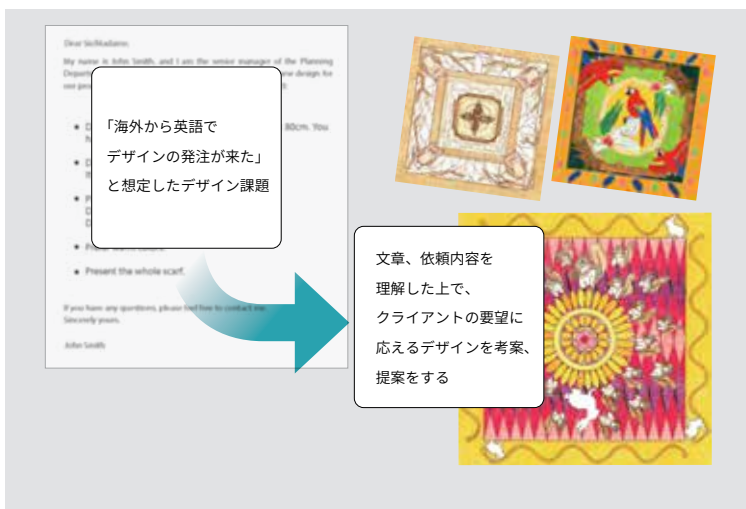
——リメディアル教育とはどのようなものですか？

総合型選抜・学校推薦型選抜などで早期に合格が決まった入学予定者は、合格から入学までの期間が長く、空白期間が生まれてしまいます。その期間を利用して各家庭で実施できる課題を課し、これからデザイン学部で学ぶにあたって大切なデザインによる思考プロセスに触れてもらうとともに、大学でのカリキュラムにスムーズに対応できる力を身につけていただきます。それらは単に技術的なスキルアップのみを目的としているのではなく、学修に対するモチベーションの維持、向上を図ることもねらいとしています。受験生（入学予定者）は添削指導を受けステップアップしながら、3ヶ月間で課題を制作していきます。

——東京工科大学デザイン学部のリメディアル教育の特徴を教えてください。

先程述べた本学独自の基礎デザイン教育では、主に美意識や感性を育む「感性演習」と視覚系スキルと工業系スキルのそれぞれ専門的な表現技術を身につける「スキル演習」を融合させた基礎教育を行い、本格的なデザイン制作へと展開していきます。本学のリメディアル教育は、それら大学での学びにつながる準備課題として、「6種類の実技課題」と「4種類の英語課題」により構成されています。例えば実技課題では、自分でデザイン会社を起業したと想定し、その会社のシンボルマーク等を考えたり、ケント紙で作ったモデルを基にアイデア展開し、公園の遊具のデザイン提案を行うといった、実践的かつ幅広い内容のプログラムが用意されています。こうした課題に入学前に取り組む事に

よって、デザインの学びに対するモチベーションや学修意欲が高まるとともに、将来自分が携わるデザインの多様な世界をイメージできるのではないのでしょうか。また、デザインの世界においても将来的に国際舞台で活躍するための英語でのコミュニケーション能力はもはや必須のスキルです。入学後はネイティブ・スピーカーによる英会話授業など、実践的な授業も展開されますが、リメディアル学習では「単語力」「読解力」「作文力」などの基礎を再確認する内容を重視しています。実技、英語に関わらず全ての課題文および解答用紙に至るまで英訳をつけているのも特筆すべき点です。このように実技のスキルアップと



国際的なやり取りを前提とした、英語によるデザイン課題の一例。語学力の必要性を認識させながら、デザイナーとして必要な考え方、姿勢を学んでもらう。



工科大のリメディアル教育では、平面・立体の実技課題のほか、英語課題も用意されている。



3年ぶりに開催された蒲田キャンパスでの卒業制作展

英語の基礎力を同時に身につけ、社会で活躍できる人材に成長していきます。本学部は1期生から連続して高い就職内定率を達成しています。

——リメディアル学習は入学前に実施されるとの事ですが、高校生活との両立は可能なのでしょうか？

課題は実技、英語とも2課題ずつ郵送してもらい、添削して返却します。高校での学習や課題を考慮して、基本的には2週間で1課題というペースを設定しています。1日1時間課題に取り組んだとしても、十分に期限内に完成できる分量です。実技課題は今までに経験がない方でも自力でこなせる内容となっていますが、万一の場合は、電話で直接質問できるなどきめ細やかなフォロー体制も整えていますので、安心してリメディアル学習に取り組んでいただくことができます。

——入学前のリメディアル学習と入学後の授業の取り組み、とても充実している印象を受けました。大学での学びの成果を、受験生や保護者の方が見られるイベントはありますか？

オープンキャンパスなど様々な場面で目にしていただけの機会がございますが、一番は卒業制作展です。昨年まではコロナウイルス感染症を考慮しオンライン展覧会を実施していましたが、今年度は3年ぶりに蒲田キャンパス内にて学外へ向けた展示を行う事ができました。「視覚デザイン」「工業デザイン」の各コースから、グラフィックデザイン全般、Web、映像、プロダクトデザインや雑貨の提案、空間演出シミュレーションなど約200点を公開すると共に学生たちの晴れやかな顔を見ることができました。



映像デザイン専攻
タイトル：「ever ReDreamer」



視覚デザイン専攻
タイトル：「マキシムバスターズ」



東京工科大学デザイン学部 2022 年度卒業制作展より



工業デザイン専攻
タイトル：
「ハングリん 学童の子ども達にむけた遊具」



空間デザイン専攻
タイトル：
「補完する集合住宅
集い、シェアする街への入口」

